「高知の授業の未来を創る」推進プロジェクト事業

令和4年度　英語授業づくり講座

≪ 第3回 教材研究会　&　第4回 授業研究会 ≫

高知市立第四小学校　授業者　HRT:窪川　日奈　教諭　ALT:　Mollie　Chan

各研究会のレポートは，高知市教育委員会　学校教育課のHPをご参照ください。

発行　：　令和5年3月
高知市教育委員会
学力向上推進室

「『高知の授業の未来を創る』推進プロジェクト事業 令和４年度高知の授業づくり講座」では，学習指導要領が目指す授業づくりを推し進めるとともに，日常的に授業研究に取り組む風土づくりを行い，自ら学び続け，共に高め合う教員の育成を目指し，拠点校を会場に教材研究会・授業研究会を１セットとして実施します。高知市の拠点校である第四小学校の第３回【教材研究会】（８月22日実施），第４回【授業研究会】（10月12日実施）を中心に本単元の学びの様子を紹介します。

領域　「話すこと(やり取り)－ウ」　単元名　「What do you like?」～お互いの好きなことを尋ね合おう～

新学習指導要領対応　小学校外国語活動教材　Let's　Try！1(文部科学省)

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ，外国語による聞くこと，話すことの言語活動を通して，コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
～小学校学習指導要領(平成29年告示)解説　外国語活動の目標～

言語活動とは

学習指導要領の外国語活動や外国語科においては，言語活動は，「**実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う**」活動を意味する。

＊「小学校外国語活動・外国語　研修ガイドブック」(2017年文部科学省)

言語活動の設定のポイント

① 伝え合う**目的(必然性)**がある。
② **相手意識**がある。
③ **「本物」**のコミュニケーションである。
④ **コミュニケーションの楽しさや意義**を感じることができる。

「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標

サポートを受けて，自分や相手のこと及び身の回りのものに関する事柄について，簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりしている。

領域における資質・能力と言語活動の系統表

	外国語活動	小・外国語科	中・外国語科
目標	話すこと〔やり取り〕ウ サポートを受けて，自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について，簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりするようにする。	話すこと〔やり取り〕ウ 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について，簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして，伝え合うことができるようにする。	話すこと〔やり取り〕ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて，考えたことや感じたこと，その理由などを，簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。
言語活動	話すこと〔やり取り〕(ウ) 自分や相手の好み及び欲しい物などについて，簡単な質問をしたり質問に答えたりする活動。	話すこと〔やり取り〕(ウ) 自分に関する簡単な質問に対してその場で答えたり，相手に関する簡単な質問をその場でしたりして，短い会話をする活動。	話すこと〔やり取り〕(ウ) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき，読み取ったことや感じたこと，考えたことなどを伝えた上で，相手からの質問に対して適切に応答したり自ら質問し返したりする活動。

単元目標

友達やALTの先生のことをもっとよく知るために，相手に伝わるように工夫しながら，何が好きかを尋ねたり答えたりして伝え合う。

【児童1】
I like pizza. Do you like pizza?
What food do you like?
Oh, sushi.
What sushi do you like?
Oh, I see. Why?
Oh, I see./ O.K./Me, too.

【児童2】
Yes, I do./ No, I don't.
I like sushi.

I like salmon.
Because it's delicious.

目標と指導と評価の一体化

単元ゴールの児童に望む具体的な姿のイメージを明確にして指導を行う。

単元構想

時	主な言語活動等	指導上の留意点　◎評価規準
1	日本語と英語の音声の違いに気付き，身の回りの物の言い方や，何が好きかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。	音声を十分に聞かせることで，日本語と英語の音声の違いに気付かせる。
2	日本語と英語の音声の違いに気付き，身の回りの物の言い方や，何が好きかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。	日本語と英語の音声の違いに気付き，身の回りの物について，What ～ do you like?/ I like ～.などを用いて何が好きかを尋ねたり答えたりしている。(知・技)
3	友だちのことをもっと知るために，何が好きかを尋ねたり答えたりして伝え合う。	やり取りに必要な表現を取り上げて繰り返すなどしながら進める。
4 本時	クイズの答えとなる友達について，何が好きかを，尋ねたり答えたりしてヒント情報を集める。	詳しく知るためにはどのように尋ねるとよいかを気付かせる。相槌をうったり同意したり，リアクションを返しながら会話する楽しさを味わわせる。
5	友達やALTの先生のことをよく知るために，相手に伝わるように工夫しながら，何が好きかお互いに尋ねたり答えたりしてクイズを作る。	やり取りで得た情報をどのように生かすとクイズ作りにつながるかを気付かせる。 ◎友達やALTの先生のことをもっとよく知るために，相手に伝わるように工夫しながら，何が好きかを尋ねたり答えたりして伝え合っている。/伝え合おうとしている。(思・判・表/態)
6	「Who am I？」クイズを通して，友だちの好きなことや好きではないことについて伝え合う。	「Who am I？」クイズを通して，友達の好きなことや好きではないことについて伝え合わせる。

授業研究会　4/6時間目

≪協議の視点≫　本時の活動や流れ，中間指導などは，本単元の目標を達成するのに有効だったか。

本時の目標　クイズの答えとなる友達について，何が好きかを尋ねたり答えたりしてヒント情報を集める。

児童に示す目標：　友だちの好きなことをさらに知ろう。

児童1：I like pizza. Do you like pizza?
児童1：What food do you like?
児童1：Oh, sushi. What sushi do you like?
児童1：Oh, I see.　Why?
児童1：Oh, I see. / OK. / Me, too. / Really? / Great.

児童2：Yes, I do. / No. I don't.
児童2：I like sushi.
児童2：I like salmon.
児童2：Because it's delicious.

・デモンストレーション
・単元ゴールの確認　①②

相手に尋ねたいことを３つ考える。②

１人目の友達に，好きなものを尋ねる。③

２人目の友達に，好きなものを尋ねる。③

３人目の友達に，好きなものを尋ねる。③

本時の目標に沿った振り返り　④

外国語教育における学習過程

① 設定されたコミュニケーションの目的や場面，状況等を理解する。
② コミュニケーションの見通しを立てる。
③ 目的達成のため，具体的なコミュニケーションを行う。
④ 言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う。

学級担任とALTによる対話で，本時のゴールの姿を見せる。また，自然な流れで，児童に英語で質問をする。

【指導のポイント】
本時のゴールの言語活動をデモンストレーションで提示することで，児童がそのやり取りの目的や場面，状況等を理解し，「やってみたい！」という意欲をもたせるようにする。

◆中間指導の視点◆
〔態度面〕
・ 相手に伝わるような工夫(アイコンタクト，相手の言葉に反応するなど)

〔言語面〕
・ 言いたかったけれど，言えなかった表現の共有。

〔内容面〕
・ どのように尋ねると詳しく知ることができるか。

児童1：「いくら」って何て言えばいいか分からなかった。
HRT：「いくら」って，何の卵？
児童2：鮭！サーモンの卵！
児童3：salmon eggや！
HRT：いいね。
(児童1に)もう1回言ってみようか。
児童1：I like salmon egg.
HRT：Good job!

【中間指導のポイント】

本時の目標に沿って，中間指導を行う。

・ 言い方が分からない場合は，その場で，**既習語句や既習表現で表現できないかをみんなで考えて**表現できるようにする。
・ 言語活動に取り組んで，言い方が分からない不確かな表現を確認し，**自覚して練習**する。
・ 最後までやり切らせる。

◎児童1と児童2のペアを全体の前で発表させる。

児童2の"I like *kuma*." について。

児童3：熊って，いろんな熊がいるから，"What *kuma* do you like?"って聞いたらいいと思う。
HRT：確かに，そう聞いたら更に知ることができるね。どう言ったらいいと思う？
児童4：What bear do you like?
児童：Nice!!
HRT：(児童2に)What bear do you like?
児童2：白クマ･･･
HRT：白クマってなんて言えばいいかな。
児童：White bear!
HRT：(ALTに)White bear, OK?
ALT：Oh, close! "Polar bear".
児童：聞こえたままを繰り返す。Polar bear!!
HRT：(児童2に)じゃあもう1回言ってみようか。
児童2：I like polar bear.
HRT,児童：Good job! (拍手)

外国語によるコミュニケーションによる見方・考え方

「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」とは，外国語によるコミュニケーションの中で，どのような視点で物事を捉え，どのような考え方で思考していくのかという，物事を捉える視点や考え方であり，「外国語で表現し伝え合うため，コミュニケーションを行う目的や場面，状況等に応じて，情報を整理しながら考えなどを形成し，再構築すること」であると考えられる。
～小学校学習指導要領(平成29年告示)解説～

中間指導におけるALTの活用

・ 児童の発話に対して，言語活動の目的を達成するための質問をしてもらったり，達成したかどうかのコメントをしてもらったりする。
・ 表現が伝わるかどうか確認する。

英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする意欲を一層高める。

情報の可視化

授業の始めに，前時の撮影動画でグッドモデルを全体に共有。どのような点が良いのかを児童に気付かせ，本時のねらいにせまる。

※第5時の様子

参会者の声

・ 中間指導において，児童の変容をどのように見取るべきか，学ぶことができた。何のための中間指導なのか，自分自身がしっかりと目的をもって指導を行っていきたい。

・ 全ての児童の活動や教師の発問にしっかりと意図をもたせること。児童が何のために活動をしているのかを理解して活動できるように促していく。

・ 中間指導で，汎用性のある事柄を取り上げて，児童のパフォーマンス改善につなげる。

言語活動を通して，コミュニケーションを図る資質・能力を育成する

学習指導要領では，小学校から高等学校までの指導の一貫性が求められ，小学校から中学校への円滑な接続が重視されている。小・中・高の指導を「言語活動を通して」行い，連続性，系統性のある指導の実現のため，小中連携はより必要性が増している。

外国語活動の目標

【知識及び技能】
外国語の音声や基本的な表現に「**慣れ親しむ**」

【思考力，判断力，表現力等】
自分の考えや気持ちなどを伝え合う「**素地を養う**」

【学びに向かう力，人間性等】
「**相手(目の前にいる友達や指導者等)に配慮しながら**」

音声面を中心に体験的に指導する「活動型」で授業を展開する。

小中9年間の学びの系統性～城西中との連携～

◆ **小中連携会議(年4回実施)**
➡ 学習到達目標や指導方法を共有することができた。

◆ **互いの授業を参観**
➡ 学習内容や指導法を把握することができ，継続性を意識して指導に生かすことができた。

◆ **第四小と城西中の「CAN-DOリスト形式」による学習到達目標を一体化**
➡ 小中の学びのつながりを視覚化でき，系統性をもって指導をすることができた。

＊第四小学校では，小学校1年時から英語教育を実施しており，単元を通して付けたい資質・能力を，自校の「CAN-DOリスト形式」による学習到達目標で確認，設定をしている。(令和4年度現在)